

問題

生産物市場における独占企業の価格及び生産量の決定について、完全競争市場との違いに言及しながら、図を用いて説明せよ。

解答のポイント

今年度は、独占市場からの出題であり、2年ぶりにミクロ経済学からの出題となった。

難易度・分量においても、非常に易しいものであるため、論点抜けがないように簡潔かつ丁寧な答案を書くことが要求される。それぞれの均衡点の決まり方について、図を用いて比較しつつ説明すれば、ひとまず及第点には達するだろう。これに加えて、死荷重やラーナーの独占度などについても説明できればなお良い。

解答例

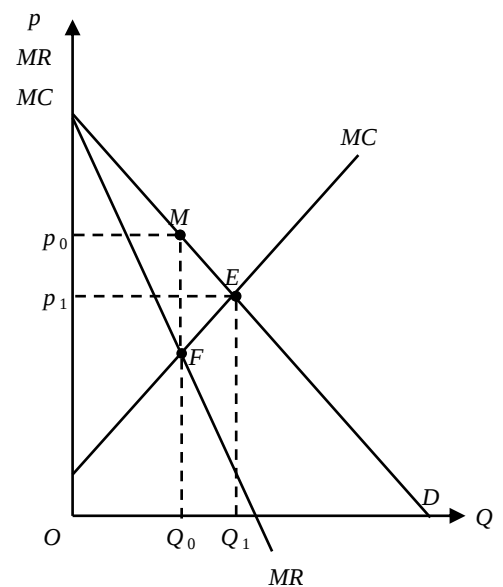
横軸に生産量 Q ，縦軸に価格 p ，限界収入 MR ，限界費用 MC をとる図に、需要曲線 D ， MR 曲線， MC 曲線を描く。

まず、この市場が独占市場である場合、独占企業は、 MR と MC が一致する水準で利潤を最大化する生産量 Q_0 を決定し、この生産量に需要量が一致するように需要曲線から価格 p_0 を決定する。よって、独占均衡点は点 M となる。

これに対して、この市場が完全競争市場である場合、市場供給曲線と読み替えることのできる限界費用曲線と需要曲線の交点 E が市場均衡点となり、取引量が Q_1 ，価格が p_1 となる。

以上より、独占市場と完全競争市場を比較した場合、独占市場の方が、取引価格は高く、取引量は少ない。これは、完全競争市場の場合、企業はプライス・テイカーであるため、企業は所与の価格と限界費用が一致するように生産量を決定するのに対して、独占市場の場合、企業はプライス・メイカーとなるため、利潤最大化生産量における消費者価格を直面する需要曲線から決定できるからである。結果として、独占における取引価格は限界費用よりも高くなり、(線分 MF / 線分 MQ_0) が独占市場の独占度となる。また、このときの独占市場における厚生損失は、三角形 EMF の面積で示される。

以上 (485 字)



TAC 生はココで解けた！

専門記述対策レジュメ p.38 の問題 8 とほぼ同じ問題であったため、こちらのテキストで典型論点を固めていた受講生にとっては、試験会場で思わず笑みがこぼれるような問題であったであろう。